

岩黒島橋下部工事 の思い出

㈱熊谷組東京湾横断道路プロジェクト室長

真田 輝見

瀬戸大橋の一部である岩黒島橋は、ルートのおぼ中央にあって、上部が斜張橋で、その下部工事は、4年8ヶ月の歳月をかけて、昭和61年3月に竣工した。そしてルートの開通もこの4月10日となり、今その雄大にして優美な姿を、瀬戸内の海に映している。

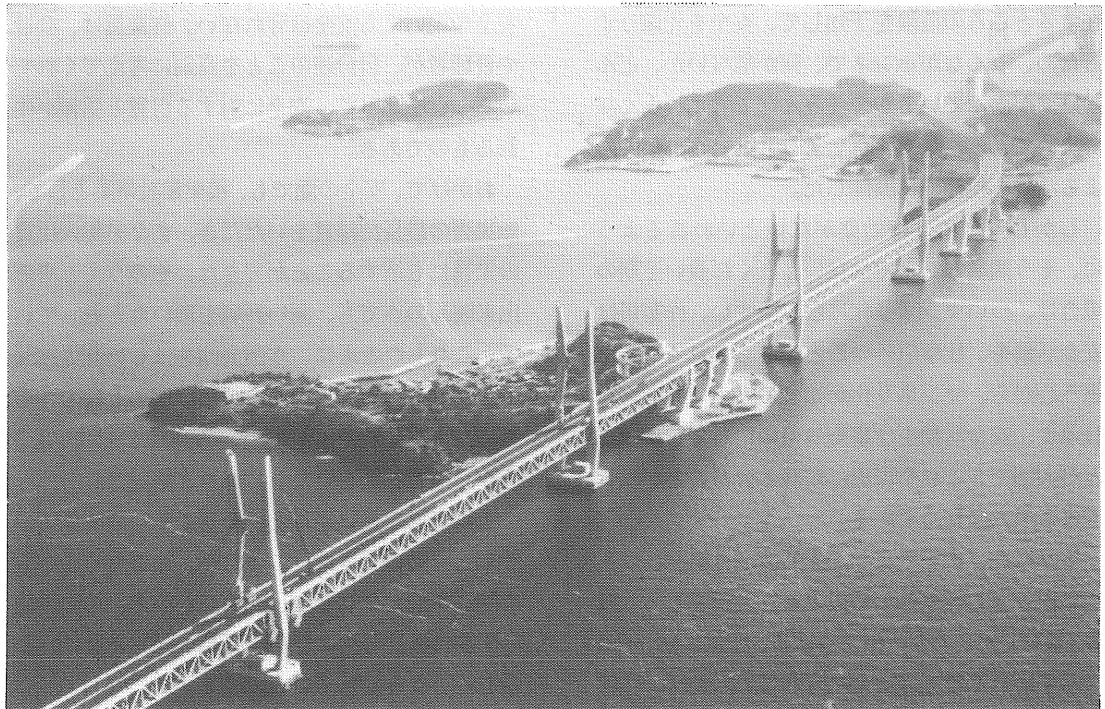
工事の内容は、潮の流れの速い海上部の橋脚基礎と、それに人の住んでいる小さな島に、大きな橋脚を造る仕事であった。そのうえ工事現場は国立公園の中であり、また付近は瀬戸内でも有数の漁場であるため、工事の施工については、多くの制約があった。しかし、多島海の美しい自然の中

で、近代的な技術を駆使して、下部工事が静かにそしてダイナミックに展開された。

今その長い施工のドラマを、振り返ってみると、そこには、いろんな思い出が浮び、また貴重な経験が偲ばれる。いうまでもなく工事を施工するにあたって、常に考えなければならないことは、地域住民の理解と協力を得て、工期内に、良い仕事を、安全に、そして経済的に仕上げることである。そのために、工事の関係者は非常な熱意と誠意、そして創意に徹して取り組んだ。

着工から約一年の間は、海底の発破作業に明け暮れた。昼夜にわたるダイナマイト装薬用の穿孔作業、また付近住民への発破による振動の影響や、航行の船舶に対する配慮など細かい気配りをした。またそれに続くケーソンのモルタル注入等、非常に張りつめた日常であった。しかし、振り返ってみると、そのころが一番充実した毎日であったように思われる。

そして職員や作業員が、朝早くから夕方遅くまで、汗と油にまみれて、一生懸命取り組んでいる真剣な姿を見て、頼もしく思うと共に、幾度となく目がしらを熱くした。それはみんなが、世紀の



完成した岩黒島橋（右斜張橋）

工事に参加した意義と、そして力を合わせて、後世に誇れる立派なものを安全に造りたいという意欲のあらわれであった。

本四架橋のように規模の大きい、しかも長期にわたるプロジェクトは、いろいろな面で世間から注目された。また、その見る目もきびしいものであった。これは工事によせられた期待でもあると思う。よって立派にそれに応えることが、工事関係者の務めでもある。そして施工管理のうち一番大切で、そのうえ難しいのが安全の確保である。それゆえ全ての業務に優先して、愚直に徹して安全に取り組んだ。

そのためには、みんなが安全の基本を確実に守って、決められたことをしっかりと実行するしかない。それには、毎日の安全朝礼・ミーティング、および点検パトロール、それに作業の打ち合わせなどのほか、週間と月間ごとに決められた安全施工サイクルを、形式に流れることなく着実に実行して、それが定着するように努めた。

そして、作業員の末端にいたるまで安全意識を高め、常に緊張感を持続させるために、全員参加による安全活動を根気よく続けた。また作業に潜在するところの危険を予知して、安全を先取りするため、みんながホンネで、何が危ないか、どんな危険が潜んでいるかを「みんなで考え、みんなで決めて、みんなで実行しよう」という小集団による活動を積極的に展開した。

しかし安全には特効薬がないといわれるように、そう簡単なことではない。とくに長い工期の場合は、ついマンネリ化になりやすい。作業員は安全活動を、仕事以外のことをやらされていると思う心から、マンネリ化が始まるものである。それゆえ、安全活動を仕事そのものにしてしまうことが大切で、これを現場に定着させることが、管理者の最大の務めである。

それには、まず職員が率先して取り組み、作業員を繰り返し繰り返し根気よく、愛情をもって指導・教育した。ただ「気をつけろ、注意しろ！」の指示や命令だけでは安全は守れない。要は、作業員一人一人が自主的にルールを守って、自分の体

は自分で守り、またほかの者にも迷惑をかけないという意識を持たせることである。そのためには、働く人を大切にする人間性と、心のふれ合う安全管理が必要である。

しかし安全の確保には、作業員に優しくするばかりが能ではない。安全に妥協は禁物である。不安全な行為を見て、それを見過ごすことは、ほんとに作業員のことを思っているとはいえない。安全管理には、心は暖かく、しかし目は厳しくの心掛が大事である。つまり、つきつめてゆけば、管理者の創意と工夫による、不断の地道な努力と熱意につきると考えられる。

また安全を確保するためには、まず現場から不安全な状態をなくすことが先決である。当工事は構造物の規模が大きく、そして工事期間も長かったので、仮設備は目先の損得にとらわれず、思いきった段取りをした。そのため安全の点でも、また工程や品質の管理などのうえでも成功であったと思っている。

とくに安全の面では、作業員が安全に働きやすい環境に整備してやるのが、我々にとって一番の務めである。不安全な設備で、作業員にいくら安全を説いても安全は守れない。作業員は、会社や管理者が、自分達のことを真剣に考えてくれていることを知って、安全に対する自覚と信頼が生れるものである。

おかげで、安全の面でも、橋梁建設事業として、無災害の最長記録賞をいただき、また労働大臣賞の荣誉にも浴することができた。そのうえ工事の出来映えの点でも、高い評価を頂いたと思っている。これもひとえに、本四公団をはじめ関係機関の適切なご指導と、地元の暖かい理解と協力、それに工事関係者の、たゆまぬ努力のおかげであり、心から深く感謝をいたしております。

これまでの長い年月と、そして多くの関係者の英知と努力のうえに、このたび、めでたくルートの開通を迎えましたが、今あらためて、この世紀の工事に参加した喜びを、万感の想いと共に、しみじみとかみしめている。